

文化庁

47.1

〈月報〉

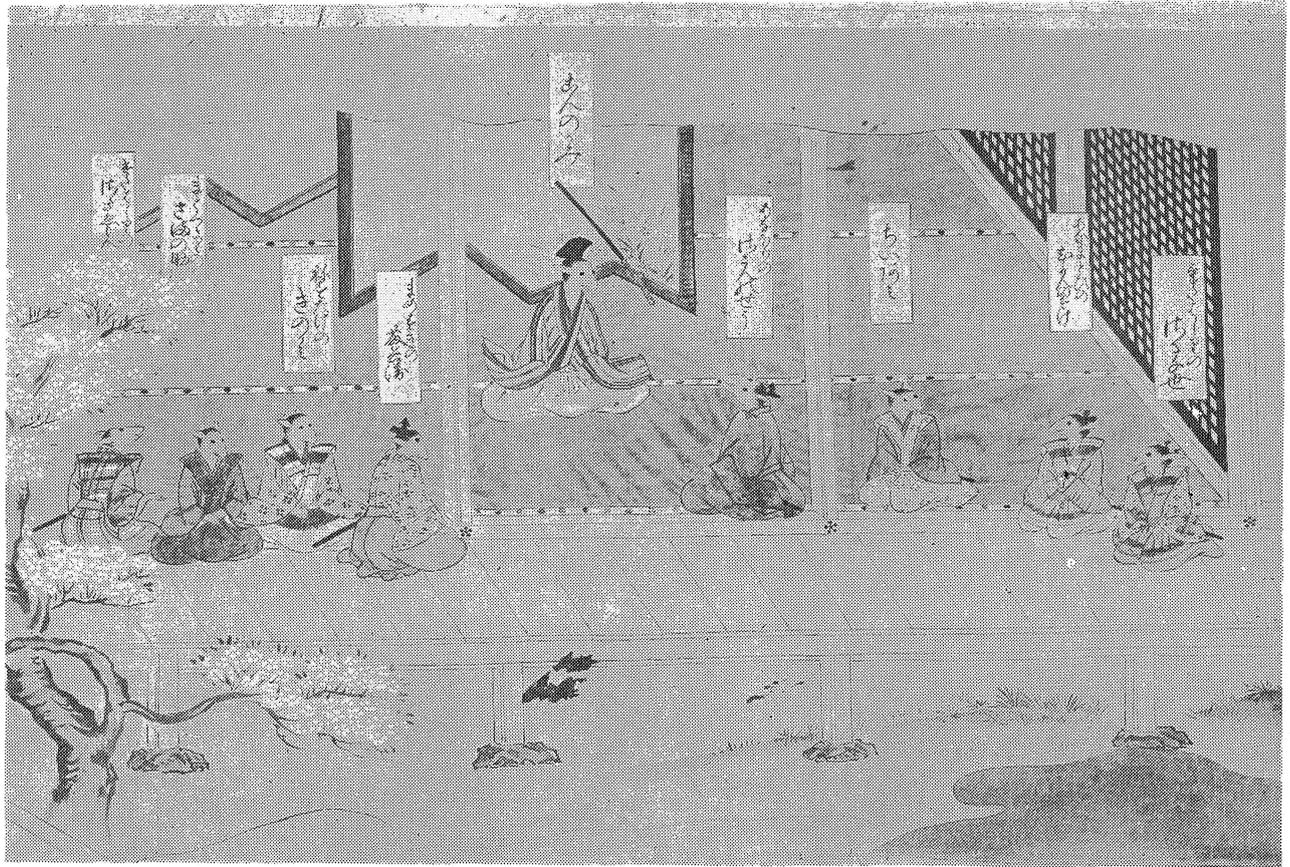
昭和47年1月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課
発行

東京都千代田区霞が関3-2-2
電話代表 (581) 4211
郵便番号 100

〈第41号〉

(題字=今日出海 文化庁長官)



鼠の草子

東京国立博物館蔵

・もくじ・

- ▽年頭のことば……………今日 日出海……………2
- ▽日本芸術院新会員決まる……………3
- ▽芸術祭大賞・優秀賞決まる……………4
- ▽レコード保護条約全文……………6
- ▽著作権講習会終わる……………8
- ▽随想……………8
- ▽「引用」(著作権シリーズ)……………9
- ▽第18回国語審議会総会開催……………10
- ▽日本語教材の海外送付……………10
- ▽日本語教育映画の制作……………10
- ▽宗教団体・教師・信者数の現況……………11
- ▽第78回文化財防火デーについて……………12
- ▽文化財指導者講習会(西日本地区)……………12
- ▽財団法人文化財建造物保存技術協会の設立とその活動状況……………13
- ▽アジア教育協力調査団に参加して……………14
- ▽昭和47年度海外日本人学校派遣教員の募集について……………15
- ▽国立博物館美術館だより……………16
- ▽国立劇場二月公演……………16

ゴヤ展の入場者が多くて会場が混雑するので毎日頭を痛めている。絵をゆっくり鑑賞出来ない入場者に申し訳ないし、作品の安全のために心配でもある。西洋美術館は、少数の入場者を予想して設計したらしく、日に六千人以上入ると混雑する。ゴヤ展の場合、多数の入場者が予想されたので、展示に特別の配慮をして、日に一万人位なら大して混乱なくスムーズに流れるように工夫したのだが、スムースに流れるというのには、観覧者が絵を丁寧に見ない場合のことである。

一日に一
つの作品を
十分に鑑賞
し得る観覧
者の数には
限度があ

る。一つの作品を同時に鑑賞出来る人数に限度があるからで、絵を理想的な高さに置いた場合三十人以下、かなり高く掛けても四十人である。西洋美術館の場合、二階展示場の照明ギャラリーの設計ミスから、現状でも、絵が光って見えにくくなるのをいろいろな方法でやっと思いでいるのが実状で、今より高く掛けるのは不可能である。階下に展示した二点の「マハ」の場合でも、照明源の位置と、額にはめたプレキシガラスの関係から、現在の位置より高く掛けると絵が見にくくなる。従ってその前で同時に鑑賞し得

る人数はせいぜい三十人。一人平均一分半見たとしても七時間半で九千人しか見られない。「マハ」のような名作になると、二分も三分もその前に立って動かない人が多い。したがって九千人以上入る日には、「マハ」の前には厚い人垣が出来て、背後の人から文句が出る。致し方ないから、「前方の方は先へお進み下さい」とアナウンスするのだが、もっとよく見ていたい人に、「早くどいて下さい」というのはまことに具合が悪い。

ゴヤ展の入場者は今のところ日に平均九千人。一月になると増えそうなので合計五十万近く入るのではないか。そうだとすると西洋

ゴヤ展の混雑

山田 智三郎

だとする

美術館の四十六会計年度の入場者数は七十数万になる。あの広大な建物に多数の名画を陳べ、世界の観光客が集るプラダでも年間入場者数が百五十万から二百万の間だという。ルーヴルでさえ入場券の発売数が二百五十万ほどだという。小さな西洋美術館に七十万以上の人がひしめくということはいかに日本人がヨーロッパ美術に飢えているかを示している。より多くの優れた作品を陳列し得るだけの購入予算と、すぐれた照明設備をもち、多くの人がゆっくり鑑賞出来る広さを新館を得てその要求に答えたい。